

開 議

○町田義昭議長 おはようございます。これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、11番、大沼久議員の1名であります。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○町田義昭議長 日程第1、市政一般に関する質問を昨日に引き続き行います。

それでは、順次ご指名いたします。

我妻 昇議員の質問

○町田義昭議長 順位6番、議席番号3番、我妻昇議員。

(3番我妻 昇議員登壇)

○3番 我妻 昇議員 おはようございます。よろしく願いいたします。

今定例会からインターネットによる議会中継が開始されました。私がこうしてこの場で質問できることはまさに光栄であり、同時に感動を覚えるものであります。日本全国はもちろん、世界じゅうに映像が配信されておりますので、もしかすると長井市出身の世界で活躍している方がごらんになっているのかもしれない。また、長井に縁もゆかりもない方がたまたま見て

いることもあるでしょう。この議会中継が単に情報公開の観点ばかりではなくて、長井に帰りたい、長井に住みたいと思っている方の背中を押すことになったり、今後のまちづくりの役に立ったりすることがあれば素晴らしいと思っております。

議会傍聴に来ることができずにインターネットをごらんになっている皆様には、ぜひ今度は直接議会に傍聴に来ていただければ幸いと願っている次第であります。

それでは、世界を意識しながら一般質問をさせていただきます。

通告しております質問は2点であります。

最初に、あやめ公園についてであります。

いよいよ6月10日、本日から7月10日までの1カ月間、あやめまつりが開催されます。13日には開園式があり、毎週末にはさまざまなイベントが組まれているようです。

そもそもあやめ公園の成り立ちは、明治43年に杉林を伐採した跡地に金田勝見氏らが野生のアヤメ数十本を植え、茶店を開いたのが始まりと言われております。途中、戦争により一時中断したことはあるものの、我々の先人たちは99年の長きにわたり公園を受け継ぎ、アヤメを守り育ててきたのであります。

アヤメの花は長井市のシンボルであります。あやめ公園は長井の歴史そのものであり、文化であると思っております。したがって、99年目に当たることし、平成21年、100周年に当たる来年、平成22年は長井市にとって大変重要な年になるのではないのでしょうか。

そこで内谷市長にお尋ねいたしますが、ことしから来年にかけて100周年の記念事業にはどのように取り組んでいくおつもりでしょうか。来年のことだから平成22年度の予算でやればよいというものではないはずです。施政方針には上杉鷹山や直江兼続の教えを掲載し、この難局を乗り越えようとするのは大変素晴らしいこと

であります。あやめ公園をつくり守ってきた人々、戦争によりほとんどなくなってしまった花たちを見事復活させた人々の活躍にも注目してほしかったなと思っています。

私なりに考えた100周年記念事業は、単純なものです。次のとおりです。紹介いたします。

例えば、大好評の黒獅子まつりを6月にスライドさせ、あやめ公園で開催してはどうか。期間を決め入園料を無料にしてはどうか。夜のあやめ公園を見てもらうために夕方から無料にし、園内で屋台祭りなどを開催してはどうだろうか。長井踊りを復活させてはどうだろうか。市役所の屋上のネオンを復活させてはどうだろうか。小中学生から大人まで参加するアヤメの写生コンテストはどうだろうか、これに賞金をかけるとなおおもしろいと思います。

どんな事業に取り組むにしても今から計画的に進める必要があるのではないのでしょうか。内谷市長はどのように考えていらっしゃるのか、お聞かせください。

また、商工観光課長に質問いたします。

100周年を大々的にPRしなければならぬと思いますが、どのように取り組まれるのでしょうか。例えば、姉妹都市、フラワー都市、近隣市町や関係する観光協会、県民や近隣県民への周知をどのようにするのか。式典のようなものを考えているのかどうか。だとすれば来賓招待というのも考えているのか。これらもまた、今からの準備になるはずで。どのような計画を立てているのかをお聞かせ願いたいと思います。

次に、施設整備についても同じく商工観光課長にお伺いいたします。

私はここ六、七年ほどあやめまつりにかかわってまいりましたが、ことは例年になく整備にお金をかけているなあと感じております。大規模な改修はないにしても、少し明るくなったような感じがしています。しかしながら、園内

園外各所には求められてる整備箇所はたくさんあるようです。例えば、駐車場や料金をいただくところや出入り口やあやめ会館などの老朽化、赤ちゃん用や子供向けのスペースの確保、雨の日の水はけ対策、水路などにたまる慢性的なごみやヘドロの除去、これは竹林が原因だと思います。それに、滝山の水の流れの悪さ、以前は豪快に流れていました。挙げれば切りがありません。今後、施設整備はどのように考えているのか、整備計画は立ててあるのか、お聞かせ願いたいと思います。

4番目に市民の気持ちについてであります。私なりに感じていることは、あやめまつりを開催する中で最も改善が必要なのは市民の気持ちだと思っています。特に夕方から夜にかけて、アヤメの花が最も魅力的に見える時間帯に、市民の足が公園に運ばないということだと思っています。100周年に当たりここをどうにかしなければ、これまでとそれほど変わらない年になってしまうのではないかと懸念しているのがあります。思い切った取り組みでどうにか市民の皆さんの意識改革を促し、100周年にふさわしいお祭りができるよう切に願うものですが、市長のご見解をお聞かせください。

ことし花火大会をするかしないかで観光協会の理事会において意見が2つに分かれました。しかし話し合いの結果、こんなときだからこそパーっと花火を打ち上げ、不景気風を吹き飛ばそうという意見が強く、開催が決まりました。それを受けて、今回市としても花火に対し200万円の補正予算が上程されています。アヤメに関しても同じように100周年記念で大いに長井市を盛り上げ、景気回復の起爆剤にすべきだと思いますが、市長のお気持ちをお聞かせください。

次の質問に移ります。

市報の広域化と発行回数についてであります。市報についてはこれまでも何度か取り上げま

した。しつこいようですが再度質問させていただきます。

現在、置賜地域の観光事業の広域連携が盛んになっております。置賜さくら回廊を中心としたやまがた花回廊はもとより、最近では大河ドラマ「天地人」を契機に、広域連携が大きな効果を上げています。そのほか置賜地域それぞれの自治体には大きなイベントがたくさんあります。上杉まつりを筆頭に、長井市と米沢市では花火大会、南陽市でよさこい祭り、白鷹では鮎まつりやサンシャイントライアル、飯豊町では牛肉まつりやSNOWえっぐフェスティバル、高島町でワインまつり、川西では「スウィングガールズ」から生まれた東北学生音楽祭など多種多様に開催され、それぞれにぎわいを見せているようです。

これらイベントの告知方法を見ますと、自分たちの住んでいる市や町が基本的な範囲となっております。他の市町に知らしめるためにはポスターを張ってもらうか、新聞広告などのメディアに載せるか、インターネットを利用するかになります。しかし、これらの方法は結構なお金がかかるか、もしくはそれほど効果がないように思えます。

そこで私は、各市町の市報、町報に、これらの情報をお互いにやりとりできる枠を設けてはどうかという提案をするものであります。3市5町あるいは西置賜でもいいと思います。年間の掲載回数を決め、お互いに掲載記事のやりとりをしてはどうか。イメージは物々交換です。例えば、長井市の花火大会の記事をほかの2市5町の市報、町報にそれぞれ掲載することができたとします。長井市も含め約7万世帯の方々にお知らせすることになるのです。しかも無料であります。効果ははかり知れないものがあるのではないのでしょうか。そのかわり2市5町合わせて7つの記事をどこかで掲載しなければなりません。

観光以外にもニーズはあると思います。例えば福祉団体やボランティア団体、NPO団体はどうでしょうか。近年は取り組む事業が広域化してきていると思います。また、学校の行事、特に長井高校、長井工業高校、荒砥高校、南陽高校などに通う生徒を持つ親からは、学校行事をもっと広く知らせたいという要望を聞くことがあります。他の自治体にも広報したいのにお金も媒体もないという問題を抱えているこれらの組織にとって、市報の広域枠はとても頼もしく、ありがたい存在になるのではないのでしょうか。内谷市長のご感想をお聞かせ願いたいと思います。

総務課長からは、このような事例は他の自治体にあるかどうか、置賜の市町にそれぞれの市報、町報に広域枠を設けることについて声がけをすることは可能かどうか、お聞かせ願いたいと思います。

重ねて総務課長へ順番を変えて質問させていただきますが、有料記事の掲載は可能かについてであります。それは、市報への無料掲載になじまないような記事、例えばタスパークホテルやはぎ苑などが主催するようなディナーショー、ビアガーデン、会社の商品を販売するための展示会や即売会、商店街の大売り出しなどです。また、さきに述べた広域枠に載せられないような他市町の記事も含めて、有料記事スペースを設け、料金をちょうだいすれば、小額ではあるものの貴重な収入源になり得ると思うのですがいかがでしょうか、ご答弁をお願いしたいと思います。

最後に、これが一番言いたいことになりましたが、市報の発行回数についてであります。

今まで述べましたように、もしも、市報の中身を発展、充実させることになるのであれば、おのずとページ数がふえることになります。ましてや昨年度から発行回数を減らして以来、ページ数はふえているのだからなおさらふえるの

+

であります。一方で、地区長や地区役員はもとより、多くの市民が、市報の発行回数が月1回ではどうも不便だと感じているように思います。少なくとも私のところにはそのような声が届いています。ページがふえて分厚くなってしまったことと、月1回の発行が不便なことを同時に解消するには、月2回の発行に戻すしかないのではないのでしょうか。

昨年9月議会において私からの同じような質問に対し、市長からは「二、三年は難しい、財政を好転させてから戻したい」との答弁があったばかりですが、再びここで検討をお願いしたいものであります。

加えて問題がもう一つあります。市報を担当する職員体制が事実上1人であるという実態であります。私は、これは少々深刻な問題ではないかと考えているところであります。市報の編集ソフトが特殊なソフトであることから、専門的な知識と経験がなければ編集できないという点です。パソコンを十分に使いこなせる人でさえもすぐには覚えられないのです。今後の市報のあり方、人材育成の観点からいっても2人体制が望ましいのは明らかでありますし、当然、発行回数も2回に戻すのが筋と思いますが、いかがでしょうか。内谷市長にお伺いし、壇上からの質問とさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。（拍手）

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。我妻議員のご質問にお答えいたします。

議員の方からは大きく2点、まず最初の、1点目のあやめ公園100周年に向けてについてでございますが、ことしから来年にかけて100周年記念事業にどのように取り組むかというご質問でございます。

実は、昨年、平成22年が100周年だということを知ったところでございます。そういった意味ではちょっと勉強不足だったんですが、そん

なことから昨年の早い時期に商工観光課とお話ししまして、今からその準備を進めようということになったところです。今からというのは昨年からということなのですが。ただし、基本的にはまず短期、ここ、その22年のときまで、100周年までやることと、ある程度時間をかけて、お金もかけてやることということで、短期、中期に分けて考えていこうということであるいろいろ検討をいただいているところでございます。

そんなことで、議員の方からもありましたように、最近少し明るくなりつつあるなと感じておられるということなのですが、それも昨年ちょっと専門家も呼びましてあやめ公園の感想をお聞きしたり、あとお金をかけないで改善といいますかイメージを変えられる部分、どういうところにあるかとか、そういったアドバイスなどもいただきながら、幸いなことに国の補正で経済活性化とか生活対策の交付金などもあったということで、少しお金をかけてきたという状況でございます。

まず、ことしのお祭りの内容を検討する体制を今、観光協会の方につくっていただいておりますけれども、我妻議員もそのメンバーだということで、まず来年に向けて、お祭り自体についてもことしからいろいろ試行錯誤を繰り返していただき、来年よりよいイベント等ができるようお願いしてところでございますが、ことしは「昭和レトロ」を切り口とした事業を考えているようでございます。そしてこの方向については私も同じ考えであり、ことしの取り組みについて、ぜひ市民の皆様の感想などもお聞かせいただきたいなというふうに思っております。期待しております。

観光事業については、基本的に今までは観光協会を中心としていくということだったと思います。それは観光協会は市民の皆様が献身的な努力と熱意によって、ボランティアで運営をいただいている団体であると。その観光協会の方

に長井の観光事業は委託しているわけですので、そういった基本的なスタンスだというふうに思っております。しかし、これからはこういった厳しい経済情勢の中で、長井はものづくりがあくまでも基幹の産業、これは製造業、さらには農業もその部分に入るかと思えますけれども、そこに力を入れていかなければならないのは当然であります、やはり新たな雇用の創出として観光事業の経済波及効果っていいですか、これは期待というよりはむしろそういうふうに雇用の創造の産業として育てなきゃいけない。これについてはやはり観光協会には残念ながらなかなか難しい点もあるだろうというふうに思っております。そんなことで、市の、行政側のしっかりとした方針を定めながら、そういった産業の育成に力を入れていくと。

一方で、観光協会のいわゆる法人化についても検討していかないと、いつまでたっても観光産業の担い手としての、牽引役としての役割って難しいというふうに思っております。したがって、イベント等についても、今一生懸命ボランティアをお願いしているわけですが、一つ一つの事業を見てみますと、採算性とかっていうのは全くと言っていいほど、失礼ですけども、考慮しないで、やはりいかに市民に喜んでいただくかというスタンスでこれ考えていただいておりますので、それはそれで貴重でありますけれども、これを継続的にする場合は事業性ということも考えなければならないというふうに思っています。

そんな中で、議員の方から具体的なご提案いただきました。例えば、黒獅子まつりを6月にスライドさせてあやめ公園で開催してはどうか。これはなかなかおもしろいというふうに思っています。ですから、観光協会の中でどのように議論されて、じゃあ来年はあやめ公園の時期にやろうとかということになっていただければありがたいと、私はおもしろいんじゃないか

なというふうに思っております。

それから、期間を決め入園料を無料にしてはどうかということについては、入園料を無料にするというよりも、何か記念品を出した方がいいんじゃないかなど。市民の皆さんは無料なわけですので、そのように思っているところです。

あと夜のアヤメを見てもらうために夕方から無料にし、園内で屋台祭りなどを開催してはどうかと。ぜひこれは検討すべきだなと思えますし、どうもここ数年来、あやめ公園の夜のイベントがなくなった。しかも市民が参加できるようなイベントもなくなったというふうに思っておりますので、これはぜひ考えていかなきゃいけないと思えます。

それから長井踊りの復活ですが、これはなかなか難しいのかなと思っております。できれば長井踊りにかわるようなものを、やっぱり市民が参加して踊れるようなものを、100周年をきっかけとしてつくっていくという方がよろしいんじゃないかなと思っております。

それから、市役所屋上のネオンについては、これは撤去したのは残念だったわけですが、かなり年数がたったということで撤去したばかりですので、これをさらにとというのは、今の段階ではちょっと難しいかなと思っております。ただ、発想としてはおもしろいというふうに思っております。

それから、小中学生から大人まで参加するアヤメの写生コンテスト、これはぜひやっていただきたいと。私も議員のときに提案したことあったんですが、やはり今の、総合学習とかそういった時間があるんですが、また指導要綱などが変わって、そういった自由に使える時間が少なくなったということではありますけれども、ぜひ小中学校の方でしていただけないかどうか、教育委員会の方をお願いして、来年のことでありますので、できれば来年はご協力いただきたい

+

いなというふうに思っております。

それ以外にも、例えば去年あやめサミットっていうところに、私2回ほど出させていただいてるんですが、去年は潮来だったんです。潮来は、ことしも出ておりましたけども、あやめ娘っていうのを公募で、長井で前にやったコンテストじゃないんですね。20人ぐらいの方を募集して、それで交代であやめ公園の周りをやっばり案内係としてやるんだそうですね。あと潮来の場合は水郷ですので、櫓舟がありまして、その櫓舟もこいでくれるんだそうですね、有料ですけども。ことしもテレビで紹介されてましたけども、総理大臣の方にあやめ娘が表敬訪問すると。これはおとしからしたことだそうですね。ですからそういったことでPRも頑張ってるんですけど、なかなかそういったこともおもしろいんじゃないかなと思ってます。

あやめ公園の方のやっばりイベントっていうのが、さっき言いましたように少なくなった。あとコンテストもなくなった。カラオケショーも昔はやってましたけどなくなった。それから冠大会、スポーツとかあるいは、この写生大会もそうなんでしょうけど、そういったものもまだ残ってはいますけども、市の主催のやつはなくなりました。つつじ公園なんかでつつじまつりの方はマラソンやってますし、いろんなことをやってるんですけども、あやめに関してはどうもおろそかになってるんじゃないかなという反省が私はあると思います。

これからの観光協会の理事や市民団体を中心として各祭りの内容を検討する中で、観光協会内部の活性化を期待するところがございますが、来年に向けては今考えてるところはこんなことを考えております。

まず、身障者トイレや園路の舗装、これ特殊舗装がいいと思うんですが、それから河川敷駐車場などの整備、河川敷の駐車場についてはやはり一番最初の印象が余りよくないんじゃない

かなと思っているところです。ですからこれをきちんと、あるいは県管轄の河川でありますけども、それを借用してるわけですが、ぜひきちんとした形で整備する必要があるだろうと。それから2点目としては、あやめ公園とはぎ公園、さらには丸大扇屋を結ぶ回遊性をこれきちんと有機的につなぐということ。それから3点目としては、夜と水辺を演出する仕掛けや事業、それから昔あったサーカスとか化け物小屋みたいな、お化け屋敷みたいな、そういうふうなものがあったらおもしろいんじゃないかなというふうに考えておまして、次年度に向けまして、ぜひ検討チームを観光協会と市民の中から、あるいは関係する団体等で作っていききたいなというふうに思います。

それから、市民の気持ちをどう盛り上げるかという点でございますが、市民に足を運んでもらえるような盛り上げ方が必要なのではないかと、全く同感であります。そのためには、長井の子供たちにいわゆるあやめ公園の昔のようにぎわいあるいはわくわく感と、そういったものを持っていただけるようなお祭りにつくこと、公園につくり上げること、それから子供を中心に市民に楽しんでもらえるものを、これなかなか難しいんですけども、つくり上げる必要があると思います。

先ほど申し上げましたように、ことしは昭和あやめ商店や屋台村などを計画しているようでもありますので、来年度に向けてそうした事業の反響などを見てみたいと思います。

また、過去には地区長の皆様、あるいは議会、周辺の市町村の観光協会とか行政の方などもお招きして、アヤメ観賞会って毎年やっておりました。今はもうやっておりませんので、そういった機会が少なくなりましたけれども、ぜひいろんな団体にあやめ公園のあやめ会館を利用いただきながら、そこで懇親会などをしていただきながら、夜のあやめ公園を楽しんでいただけ

るような、そんなことを声がけしていきなさいいけないというふうに思っているところがございます。

あやめ公園の全体的な構想については商工観光課長の方から答弁あるかと思えますけども、やはり長井に欠けているのは、公園そのものは南の方の高台の入り口がなくなったということで、立体感がなくなったと。高いところからも見える、低いところからも見えるということがなくなったので、そういった意味では非常に平面的で物足りないというところがあると。それからほかのアヤメ公園などを見てみますと、水郷の中に咲いているアヤメの中を歩くという、そういう情緒があるんですけども、残念ながら長井はちょっと畑みたいになってしまっているので、そこのところを舗装にするのか、木道みたいなのがいいのか、そういったところも含めて考えなさいけませんし、やはりイメージとしては水郷とか水が一番最初に出てきますので、そこをどういうふうに演出するかだと思います。ただ、長井の500種のアヤメ、長井古種も含めて、あと100万本というのは、これは日本一ですので、これが売りですので、その売りもきちんと生かしつつ変えていきなさいいけないというふうに思っています。

次に、大きく2点目の、市報の広域化と発行回数についてでございますけども、まず、観光やまちづくりの広域化が進む中、市報に広域枠を設けてはどうかということでございますが、イベントへの集客という点では他市町の広報紙利用は大変有効だと考えますし、NPO団体が広域的に活動していることから、市町の枠を越えて広く知られることも大変有意義だと思っております。市や町をまたがった掲載記事のやりとりについては、相手があることですので方法をいろいろ検討しなければなりません。要望が多く、それぞれの事業が効果的に進められるのであれば、ぜひ検討してまいりたいという

ふうに考えているところでございます。

それから、私の方からあとは発行回数をふやしてほしいという市民の声についてでございますが、議員の方からは前にもそういったことでご質問いただいて、ぜひ検討しなさいいけないということでございますが、やはり市報の発行回数については、あと担当職員を1名にしたということについては、平成19年、20年の本当に厳しい、もう予算も組めるかどうかといった瀬戸際の中で苦渋の選択をしたわけでございますので、いずれ発行回数を2回に戻すか、あるいは担当者も、2人っていうことはできないかと思いますが、もう一人の職員を兼務で、1.5人の体制に戻したいというふうに思っております。

ただ、発行回数を1回にして、割と地区長さんの皆様からは、「いや、1回でよかった」という声もあるのも事実であります。ただし、月1回ということになりますので、地区内で回覧とかいろんな案内するときに、タイムリーなものじゃなくなってしまうものですから、独自に地区によっては別な日に回している日もあるということですので、広報の方にはそういった声はないということでございますが、やはり2回ということも、戻すということも必要なのかなというふうに考えているところでございます。

財政状況は少し先が見えてきたということで、まだまだ予断を許しません。広報については非常に重要な、市政の動きやあるいは市のいろんなイベント等の情報をお知らせするツールですので、これはぜひ検討していきたいと思えます。

ただし、もう一方で、市報を2回にふやすということじゃなくて、市報は1回でもしかしたらいいのかもしれないと。ただし、議会の中継がインターネットの中継で今回からなるように、私が考えておりますのは、JANを使って、いわゆる光ケーブルを使ったケーブルテレビと。テレビで市の情報あるいはイベント情報、市内

+

の動きなどを知らせるようなことができないかということで、平成19年にNTTの方、支店長始めお越しいただいていろいろ検討いただきました。技術的にも可能だと。あと最初の投資額あるいはランニングコストも何とかできるんじゃないかなと思ったところでございます。ただし、今度はコンテンツっていうか、番組をつくる、そういう制作の部分をどうするかとかいろんなことがあったんですが、JANの方でその後、私の方からもお願いに行きましたけども、少し検討していただいているようでして、インターネットテレビみたいな形で、パソコンを開かないでテレビでその情報見れるということが可能だというような状況になりましたので、それらについても検討の材料の一つかなと。

いずれにしても議員おっしゃるように、市の情報をもっともっと市民にお知らせしながら、情報公開を進めていくことが大切だというふうに思っているところでございます。

私の方からは以上です。

○町田義昭議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

まず1点目の、市内外へのPRはというふうな点でございますが、現在、記念式典等の開催の有無及びその内容につきまして、現段階ではまだ着手していない状況でございます。ただ、今頭の中にございますのは、結城市長さん、この方は毎年あやめまつりの際の結城市の物産展に合わせて来市をされております。姉妹都市でもあります結城市長さん、それから日本花菖蒲協会の役員の方などにつきましては、正式に長井の方においでいただくようなことは考えていきたいというふうに思っております。また、招待というふうなまでにはいかないまでも、フラワー都市の自治体関係者あるいはあやめサミット関係者、それからフットパスの協会等、これからの連携につながるような皆様方に対してはぜひともご案内をしたいものだというふうに考

えてございます。

あとPRとして大切なことは、とにかく早目に事業内容を固めてPRをしていくというふうなことだろうというふうに考えてございます。

2月あるいは3月ぐらいまでにはそれぞれの既存の祭りも含めてなんですけど、事業内容を固めてポスター等を作成しながら、それを持っているんなところにご案内をすると、PRをしていくというふうなことが必要だろうというふうに思っております。こういったふうな日程的な部分を念頭に置きながら、これから観光協会の皆様方とも検討を進めていきたいというふうに考えてございます。

それから2点目の、施設整備の予定あるいは考え方でございます。ことしは高台並びに北口のトイレの改修、案内所というふうな形での整備を中心に多少行うことができました。あやめ公園の整備計画全体について、今現在持ち合わせていない状況でございますが、あやめ会館などを含めた大規模な改修につきましては、公園全体の改修というふうなことで考えますとかなり専門的な知識を要するであろうと。時間、それから金額的にもかなり大きなものが予想されるというふうなことで、今現在はやれるところ、あるいはやってもよいだろうというふうに考えられる部分につきまして手を入れているというふうな状況でございます。

これからの整備方向につきましては、先ほど市長がお話をなさった点と重なるかと思いますが、野川、それから総宮神社まで含めての中で、水、それから歴史、それから花というふうなものをつなぐ形でのあやめ公園の全体の位置づけの中で整備をしていく必要があるんだろうというふうに考えてございます。

河川敷あるいは園内の身障者トイレ、それから園路の舗装といったふうなこと、あるいは水辺の環境というふうな部分につきましては、現在、国の方から出されております交付金事業の

中でも一端は要求をさせていただいております。こうしたものにつきまして、可能なものから実施していくというふうなことで考えております。

21年度につきまして、あやめ公園の再スタートの年にしていきたいというふうなことで考えております。以上です。

○町田義昭議長 飯澤常雄総務課長。

○飯澤常雄総務課長 おはようございます。我妻議員のご質問にお答えいたします。

まず、第1点目の市報の広域化枠の件でございますが、長井市の市報につきましては、これはご案内のとおり、長井市の市報発行規則に基づきまして対応してるわけでございますが、広域的な情報、これはイベント情報も含まれますけれども、そういった紹介記事あるいは募集記事など、これは必要に応じてその都度掲載をさせていただいております。ただし、基本的には長井市内に関するイベント情報あるいは長井市民に直接かかわること、これを優先するのが大前提であろうかと思っております。スペースがあれば他の市町催し掲載するという対応で対応しておりますけれども、これは長井市に限らずほかの自治体、団体等のところでも同じような対応ではないかなというふうに思います。

他の自治体に広域枠の例あるかということでございますが、今申し上げたとおり、私どもちょっと承知してる限りではそういった事例はございませんというふうにお答えするしかないようでございます。

ほかの自治体からさまざまな市報・町報などをちょうだいしております。私どもの記事の参考ですとか、こういうこともやってるのかとか、いろいろ今後の研さんも含めて対応できるものですから今も続けておるんですけども、そういったところをちょっと見てみました。で、やはり定期的に枠、コーナーを設けて対応しているというところはちょっと残念ながらなかったようでございます。

先ほど市長のご答弁にもありましたように、これからそういったニーズがあって、しかも有意義な部分で対応できる部分があるとするれば、置賜一円というわけにはちょっといきませんけれども、少なくとも隣町あたりには、白鷹、飯豊さんあたりには声がけすることは可能であるというふうに思います。

次に、2点目でございますが、有料記事枠、これ記事というふうにならざるが、ご質問の内容をちょっと伺ってみますと、どうも広告というふうにもとらえられるのかなというふうに思います。現在、市の市報、それからホームページ等でいわゆる有料広告の掲載、これは実施をしております。昨年8月に庁内で企画調整課さんと私ども総務課の方でいろいろ協議をさせていただきまして、有料広告を市報あるいはホームページに載せる際の基準ですとか、さまざまな取り扱いの詳細にわたっていろいろ決めさせていただきました。昨年の10月から実施をしております、ちなみにちょっとPRですけども、延べ11件、13万1,000円ほど20年度決算では収入ちょうだいしております。それなりに一定の反響があったということで、今後も続けていく対応で今進めてるわけでございますけれども、これらの部分のところでこの有料広告の掲載の基準、これらに該当するものであれば、イベント情報なども当然なじんでくる部分のところはあるのかなというふうには思います。

ただし、実務面で申し上げますと、いわゆる広告掲載、依頼あったものがすべてを受け入れてるわけではございません。やはり中には、先ほど申し上げました掲載の基準等に照らして、これはちょっと不適切ではないかというものはねかせていただいているものもございます。

そういったところで、そういった部分の基本をしっかりと見きわめながら対応はしていきたいというふうに考えております。

+

ほかの自治体との、いわゆる先ほどの物々交換のところでございますが、こちらの方は広告の部分のところに対応できる部分はその枠のところに対応していただいて、ページを買い取っていただくようなケースの場合ですと、これは1ページ1万何千円という形で買い取って対応していただくというようなことになろうかと思えます。

私からは以上です。

○町田義昭議長 3番、我妻 昇議員。

○3番 我妻 昇議員 ご答弁ありがとうございます。

まず、あやめ公園についてですけれども、どうも言ってることはわかるんですけれども、ことし99年、来年100年だというのがもうちょっと感じられないなというふうに思わざるを得ません。

私が今回この一般質問で取り上げたところでわかってほしいのは、先人たちがかなりの努力をされてこれまでつくり上げてきたということを知っていただくべきだと、市民に、または市内外に。市長は来年が100周年だと昨年気づいたんだと。市民もそうなんです。市民、まだ知らない方もたくさんいらっしゃると思います。なので、あやめ公園って何でここまでこうなったのか、そもそもだれがつくったのか。戦争中は芋畑か何かちょっと詳しくわかりませんが、もうアヤメの花を全部抜いて食料の畑にしたんだと。でもその戦争が終わってからまた一つ一つ植えていき、また自分の財産をなげうってという人もいらっしゃるようですけれども、努力によってここまで来た。昭和30年代、40年代、50年代まででしょうか、全盛期で、長井を代表する、全国で有名なまでになったわけですよ。きのうも先人たちの功績ってということで、企業城下町のことも出ておりましたけれども、長井のあやめ公園もまさに先人たちの努力でここまで来たんだと。そういうことを念頭に

置けば、この99年、ことし、来年100周年というのは、もっと本気でぶつかっていくものではないのかなというふうに思っておりますので、市長も商工観光課長ももう少し迫力が欲しいなと思えます。

私が個人的に提案したというか、思いつきで提案しましたことですが、ぜひ検討していただきまして、ネオンなんていうのは今でもよく言われます。いろんな市役所に行政視察になんか行くと、「ああ、あのネオンの長井市ですね」っていうふうに言われるんですよ。もうかなりのインパクトあったみたいですね、あのネオンというのは。なので、ちょっと現実的じゃないというふうに思われるかもしれませんが、それほどインパクトのあった、市役所にネオン飾ると。まずあそこまで戻ればなというふうに思ってるわけですが、戻れなくても、意識だけでももっと上の方に上げるべきではないかなと思えます。

サーカスと呼ぶなんてもう最高じゃないですか。今、サーカスなんて見れないですよ。サーカスと呼んだり、それも観光協会に検討してもらって、観光協会に何か丸投げしているようなイメージがどうしてもつきまとうわけですが、この市の考え方と観光協会の考え方を抱き合わせしたり、どうやったら市民の気持ちを盛り上げられるのかというのを、もうちょっとタッグを組んでやられたらどうでしょうか。どうも水郷の演出ですとか、アヤメ観賞会の復活ですとか、そういったことは実際、観光協会にそういった話題を提供しているのか、市は、市長はこういうことを考えてるんだ、商工観光課長はこうなんだということを観光協会とどういうふうにしり合わせしていらっしゃるのか、どうもそこら辺が見えてこない。このまま100周年に向けて果たして向かっていけるのか、商工観光課長の答弁では、式典をするかしないかもまだ検討してないということでしたので

で、どうも何となく不安が残るわけですが、市長のお気持ちをもうちょっと詳しく市民の気持ちを盛り上げる、または市役所そのものの気持ちを盛り上げるという点について、もう一度ご答弁をお願いしたいと思います。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻議員がおっしゃるように、アヤメというのは長井にとってはシンボルだというふうに思ってます、市章が何しろアヤメですから。それから、私も議員のときにはあやめ公園のことを何回も質問いたしました。しかし、我妻議員おっしゃるようなことよくわかりますが、どういうわけかここ平成になってからあやめ公園っていうのは魅力を感じないような施設にしてしまったということで、それは行政の反省もありますけども、観光協会とのかかわりっていうのも大きな要素かなと思ってます。

批判を恐れずに申し上げますと、観光協会については残念ながら今まではなかなか私が意見を申し上げる機会がなかった。しかし、市民の皆様がいろいろ考えて検討されてやったことについて批判はできませんので、ですからそういった意味では、なぜあやめ公園にもっと力を入れてもらわなかったんだと、それは商工観光課の方には強く言いました、今までも、去年、おとし。ところが商工観光課でも受け入れてもらえなかったと。変な話なんですけども、そういう実態は我妻議員はよくわかってらっしゃると思うんですね。ですから、ことしようやく新しい体制になって、市長が顧問として入れていただけましたけども、今までは顧問としても入れていただけなかったと、そういう現実があったと思います。

そういった中で、まずはアヤメだけは市で管理してるわけですから、よくしようということ、作業長含めて一生懸命努力いただいてすばらしいアヤメにはしていただいた。ですから、後はお祭りの部分をどうするのかなというふう

に思ってるところです。

あと、市の方ではこれから私がこうしろ、ああしろということではなくて、やはりいろんな市民の皆様の意見もお伺いしながら一緒にやっていくことだと思いますので、私としてはこうしたい、ああしたいってのはもちろんあります、いっぱい。ただ、予算が残念ながら厳しいとか、そういう制約はありますし、あと施設そのものも、実は私も若いとき仕事で、例えば川崎にある向ヶ丘遊園とか、あとは富士急ハイランドとか、コンサルを1年間したことがありますので、ある程度セミプロとしての見方もできます。そういった見方からして、あそこは市民公園じゃなくて観光公園ですから、そこをどうするかという部分については言いたいことがたくさんあるんですが、なかなか一概にはできないと。ですから私がお願いしたいのは、我妻議員は観光協会の理事として頑張っていただいているわけですから、観光協会ももっと盛り上げていただきたい。市ではそれにこたえるということで準備はしておりますので、来年などにはいろんな式典もしたいと思ってますし、記念事業とか。しかも1日で終わるんじゃなくて2日とか3日かけてやるべきぐらいの内容だろうと。議員ご指摘のとおりですよ。ですからそれは、ぜひ観光協会からも盛り上げていただければありがたいなと思っております。市としても努力したいと思えます。

○町田義昭議長 3番、我妻 昇議員。

○3番 我妻 昇議員 責任のなすり合いみたいなことになると困りますので、私もそれ以上言いません。

例えば市民の盛り上がりでいいますと、この間、北中の教頭先生としゃべったときに、100周年のときにボランティアガイドを中学生でやりたいんだというふうな構想を持ってる、まだ具体化してませんけれども。そのようにあやめ公園の100周年を盛り上げようとしてるとこ

+

ろが一部に出てきておりますので、私が聞く限りですけれども。そういったところをすぐにおいをかぎつけてというんでしょうか、そういった市民の声を拾い上げて、市、観光協会、市民一丸となって100周年に向かっていただきたいと思います。私も努力いたします。

それで、市報の広域化、発行回数については、有効であると市長はおっしゃるわけですが、総務課長は基本は長井市内なんだと、それはまあ当たり前ですよ。ニーズがあればということなんですが、ニーズは調査すればあると思います。調査しなければならないと思います。前回は発行回数を2回に戻してほしいという声がたくさんあるはずだ、もっと調べてくださいと、待ってるだけじゃなくて総務課長に調べてくださいというふうに申し上げたんですが、そこら辺はどうなったのかはわかりませんが、どうも真に市報がどうあるべきか、市民がどう求めているのかということ市の方から調査していないのではないかなというふうに受け取られるのですが、総務課長いかがですか。

○町田義昭議長 飯澤常雄総務課長。

○飯澤常雄総務課長 お答えいたします。

昨年、市報の発行回数につきましてはいろいろご意見などいただきました。折に触れまして、私も所管のところでは地区長さん方のお集まりの地区長連合会の方の事務局的な対応しておるわけでございますけれども、折に触れていろいろご意見などはちょうだいしております。アンケート様式のような形で市内全地区長さんにお聞きはしておりませんが、その都度いろいろ情報などはとっております。それからとし、来る7月6日にも1回目の連合会様との懇談、市長・副市長との懇談会を予定しております。そこらの方でも今お話になったような部分のところもご議論いただくような予定であります。以上です。

○町田義昭議長 3番、我妻 昇議員。

○3番 我妻 昇議員 広域枠のこともこれかなり有効だと私は思っております。ぜひ長井市が音頭をとって、3市5町入ると7万件って、ちょっと私、正式な数字が調べてないんですけども、かなりの広報、広告、告知効果だというふうに思っておりますので、以前は3市5町かあるいは西置賜だったんでしょうか、広報担当の集まりがあったと。以前はいつごろまでだったのかわかりませんが、それが自然消滅したというふうにお聞きしております。それを復活させて、こういったことどうだというようなざっくばらんな話し合いをする場を長井市が音頭とるっていうのはだめでしょうか、市長。合併をしようというような話し合いじゃないわけですので。広域枠設けたらどうだと、まずは1つの記事から始めようじゃないかというふうなことを、まず音頭をとるといえるのかはかがですか、市長。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 議員がおっしゃるように、私ももう少し広域でいろんな情報を共有することが必要だと思いますし、今度置賜の広域行政事務組合の理事会等々で、その他でぜひちょっと一回早速呼びかけてみたいというふうに思います。

○町田義昭議長 3番、我妻 昇議員。

○3番 我妻 昇議員 これは観光に携わったり、まちづくりやいろんなイベントを立ち上げる人から言わせると、のどから手が出るほどおいしい企画、取り組みだと思いますので、そこを十分に酌み取っていただいて、市長がおっしゃいますようにぜひ話をさせていただきたいと思っております。

質問は以上であります。ありがとうございました。

谷口栄子議員の質問